

**[書評] 鈴木祥蔵著 鈴木祥蔵幼児教育選集・全五巻
(明石書店)**

著者	中城 進
雑誌名	教育科学セミナー
巻	21
ページ	21-22
発行年	1989-12-15
URL	http://hdl.handle.net/10112/00019496

鈴木祥蔵 著

鈴木祥蔵幼児教育選集・全五巻（明石書店）

鈴木祥蔵先生は、1989年の3月で、40年間にわたってお勤めになられました関西大学を定年退職なされました。鈴木先生は、教育思想・哲学をご専門となされ、優れたご研究を発表してこられました。また、部落解放教育・「同和」保育運動の理論的指導者としても大きな役割を担ってこられました。鈴木先生は、幼児教育に関しても積極的に取り組んでおられ、もつれた問題の糸を解すべく、各雑誌に数々の論文を精力的に掲載なされてきております。

『鈴木祥蔵幼児教育選集・全5巻』は、鈴木祥蔵先生が幼児教育に関連した題目で各雑誌に掲載なされた論文を選りすぐったものです。

1989年から1990年にかけて、順次、全五巻の選集として出版される予定になっております。

第一巻『地域の保育運動 —子どもに生きがいを一』（1989年5月31日発行）

第二巻『ことばを育てる —心田を耕す—』（1989年8月10日発行）

第三巻『差別を許さぬ保育とは —主体的自己変革者へ—』（1989年11月30日発行）

第四巻『幼児教育の制度と理論 —子どもたちに最善のものを—』（1990年2月発行予定）

第五巻『新しい子ども観を —共に希望を語ること—』（1990年5月発行予定）

第一巻『地域の保育運動—子どもに生きがいを一』においては、孤立化のすすむ子どもたちの生活を憂い、子どもが子どもらしい生活ができなくなっている実状を打開していく道を探り出そうとすることがテーマとなっています。

『Ⅰ. 「はらっぱ」と「すみっこ」』では、子どもの遊びが取り上げられ、失われつつある「はらっぱ」と「すみっこ」や、子どもの集団の意義が説かれています。

『Ⅱ. 家庭をひろく』では、家族制度が取り上げられています。村落共同体の崩壊とともに家族共同体も崩壊して、人々がバラバラに切り裂かれてしまい、人々は孤独になっています。特に、都会の孤独は深刻であり、子育てにも大きな影響を及ぼしています。このような事態に付け込んだ形で、旧家族制度の復活を目論む“家庭基盤の充実”政策が唱えられてきています。そこでは、子育てにおいては、旧家族制度の母親像が重視されています。著者は、そのような旧家族制度に基づくような共同体の復活運動や、育児の責任を母親1人だけに負わせることに対して、真っ向から反対しています。そして、育児というものは、母親一人でやれるものではなく、地域共同体の力と家族共同体の力があいまって成立するものだ、と説いています。

『Ⅲ. これからの子育て —共生・共育を求めて—』では、著者は、子どもの人権を取り上げて、子どもの人権が保障されるべきことを説いています。また、子育てが実際に行われる地域において、子どもたちが育ち合う物理的環境や制度的な環境や人的な環境の質が問題であると指摘します。そして、子どもたちを包み込む地域共同体の質を問い、我が子も他の家族の子どもたちも同じように分け隔てなく大事に育てる共同子育てをすすめます。そこでは、共に生き、共に育ち合う関係が生まれているのです。

第二巻『ことばを育てる —心田を耕す—』

は、『Ⅰ. ことばを育てる』と『Ⅱ. 心田を耕す』とから成っています。著者は、言葉というものは、単に物事を表すための名辞だけではなく、人間的な意味合いを保持しており、人間を人間化するものだと言います。また、「心田を耕す」（水上勉）という言葉に、著者は幼児期の心や感性の重要性を見ます。現代の主流をなす公教育は、ともすれば子ども時代に人間の感性を閉ざすことを行っており、意図的に感性を鈍らせた労働兵士を生産しています。著者は、そのように感性を閉ざすことなく、感性を育てつつ教育が行われなければならないと言います。

また、第三巻『差別を許さぬ保育とは 一主体的自己変革者へ』では、『Ⅰ. 「同和」保育の前提』と『Ⅱ. 「同和」保育運動と保育内容の創造』と『Ⅲ. 主体的自己変革者へ』という構成に成っています。

鈴木先生の取り組み方は、大学者には往々にしてありがちな“理論の高（たかみ）から人々に発言し、理論の枠組の中に人々を引きづり込

む”というやり方とは全く異なるものです。鈴木先生の取り組み方は、人々と同じ平地に立ち、肩を抱き合い、共に語り合い、そして共に戦い抜く姿勢をもっています。私事で恐縮なのですが、大学院に入ってすぐの頃ですが、私は鈴木先生の講義内容に“それはおかしい”と激しく噛み付いたことがあります。教育学をよく知らぬ若造の“いちゃもん”に対して、怒りもせず筋道だてて議論を交わして下さり、議論が終わった後に、「また、批判してください」と言って教室を出ていかれました。その時の鈴木先生の“共に語り合う”という姿勢が印象的でした。

『鈴木祥蔵幼児教育選集・全五巻』におきましても、共に生き・共に育ち合う関係の創造としての鈴木教育学が見事に結晶しております。

（中城 進）

〔鈴木祥蔵幼児教育選集・全五巻・四六版・各巻低下1,545円（税込）・明石書店〕